

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「セブンイレブン、セルフレジを“空中ディスプレイ”で非接触に」
- 2) 「日立、カメラ付き冷蔵庫 スマホでいつでも確認可能」
- 3) 「農研機構 “内臓脂肪減らす” 弁当 3月から販売開始」

---

### 1) 「セブンイレブン、セルフレジを“空中ディスプレイ”で非接触に」

アスカネット、セブン-イレブン・ジャパン、東芝テック、三井化学、三井物産プラスチックは、直接触れずに操作できる「空中ディスプレイ」技術を採用し、非接触で商品の読み取り・決済ができるキャッシュレスセルフレジ「デジPOS」の実証実験を、都内のセブン-イレブン6店舗で2月から順次始める。空中ディスプレイを採用したPOSレジは世界初という。

台上の平面に設置したレジ画面ディスプレイの手前に、光を屈折させるプレートを設置。ディスプレイ映像を空中に結像させる。利用者は、空中に浮かんだ映像をタッチパネルと同様に操作すれば、センサーが指の動きを読み取る。

決済は「nanaco」、交通系電子マネー、iD、QUICPay+、楽天Edy、クレジット・デビットカード、バーコード決済、Apple Payに対応した。

空中ディスプレイ用プレートの開発・製造をアスカネットと神田工業が担当。両社と三井化学、三井物産プラスチックの4社が、POSレジ用空中ディスプレイモジュールの共同開発を担った。三井化学はさらに、プレートに使う接着剤も提供する。東芝テックはPOS決済システム提供と、店舗での設置・組み立てを担当する。

(2022/01/28 ITmediaNEWS)

まさに未来的なレジシステムでわくわくさせられるニュースだ。コロナ禍での非接触対応はもちろんだが、日本の技術を世界に発信する材料にもなるだろう。ただ使い慣れていないと操作が難しかったり対人レジより時間がかかってしまったりと利用者側が積極的に使う努力をしないと浸透しない気もする。1台あたりの費用も気になるところだが、まずは実験を経てどのような動きになるか注目したい。

---

### 2) 「日立、カメラ付き冷蔵庫 スマホでいつでも確認可能」

日立グローバルライフソリューションズは1月26日、カメラ付き冷蔵庫「まんなか冷凍HXCCタイプ」を発表した。冷蔵庫のドアを開けたときに自動で内部を撮影し、スマートフォンアプリで撮影した画像を確認できる。これにより、食材の二重購入や買い忘れの防止をサポートするという。

カメラは冷蔵庫の上部に設置。冷蔵庫の棚と左右ドアポケットを撮影できる。スマートフォン上での画像の確認は「日立冷蔵庫コンシェルジュアプリ」で行える。アプリの対応OSは、Android 6.0以降とiOS 10.0以降。

定格内容積617L（本体幅685mm）と、定格内容積540L（本体幅650mm）の2サイズを用意。オープン価格で、2月24日に発売する。

(2022/01/27 ITmediaNEWS)

出先で冷蔵庫の中身を忘れることは多々あり、その度の中を確認できたらいいのにと感じていたので比較的アナログな方法で買い忘れを防げる優れたものだ。カメラの位置や撮影方法も、まだ一般的でないシステムなのもありまだまだ改良点はあるそうだが、様々あるIoT家電の中でもかなりニーズのある機能だといえる。今後の冷蔵庫の進化に期待したい。

---

### 3) 「農研機構 “内臓脂肪減らす” 弁当 3月から販売開始」

つくば市に本部がある国の研究機関「農研機構」が、毎日食べることで内臓脂肪の減少などが期待できるオリジナルの弁当を開発し、ことし3月から販売を始める。農研機構が開発したのは、ごはんと4種類のおかず、それに緑茶の粉末がセットになった弁当だ。主食のごはんには、農研機構が開発したもち麦の品種「キラリモチ」を50%配合している。

「キラリモチ」には、脂質や糖などを吸着して体の外に排出する働きなどがある食物繊維が多く含まれていて、プチプチとした食感が楽しめるという。また、緑茶は血中のコレステロールや血糖値の上昇を抑制する機能などがあるとされるカテキンを多く含む「べにふうき」という品種を使用している。

メインのおかずは、鶏肉のトマトソース煮やぶりのから揚げなど10種類から選べ、ここに豆や緑黄色野菜などを使った3種類の副菜がつく。1食で1日に摂取が必要とされるたんぱく質のおよそ5割、食物繊維の7割から8割を補うことができ、塩分量やビタミンなども計算されているということだ。農研機構は、継続的に食べることで内臓脂肪の減少が期待できるほか、疲労やストレスの改善などにもつながるのではないかとし、今後、実証試験を行って効果を検証することになっている。

弁当は、農研機構と提携する企業がことし3月からインターネットなどで1食900円前後で販売する予定で、注文すると冷凍の状態自宅などに配送される。農研機構の山本万里エグゼクティブリサーチャーは「生活習慣病の人にも役立つ食事であり、健康を増進したいと考えている全世代の人たちに食べてもらいたい」と話す。  
(2022/01/26 NHK NEWS WEB)

内臓脂肪を気にする人に向けたサプリや食事と一緒に飲むお茶など最近では選択肢が随分増えたが、「食べながら内臓脂肪を減らす」効果があれば一石二鳥でサプリの飲み忘れや買い足しをしなくて済む。こうした商品がネット専売ではなく、スーパーやコンビニに並べばもっと手軽に取り入れられ、食に制限がある人たちの来店動機にもつながるだろう。健康や美容に関する一石二鳥商品があらゆるジャンルでもっともっと増えてくれれば嬉しい。